

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月24日

協議会名: 安城市総合交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、 整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持 事業において、車両減価償却費等及び 公有民営方式車両購入費に係る国庫補助 金の交付を受けている場合、離島航路に係 る確保維持事業において離島航路構造改 革補助(調査検討の経費を除く。)を受けて いる場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間におい て、前回の事業評価結果をどのよ うに生活交通確保維持改善計画に 反映させた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価  【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価  【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたか を、目標ごとに記載。目標・効 果が達成できなかった場合に は、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。 改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り 組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通 確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向 性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記 載
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線右まわり・左まわり 安城更生病院～JR安城駅 ～安城更生病院	・公共交通活用ガイドの作成、バス 案内人による乗り案内、小中学生 夏休み無料キャンペーン、安城市 の広報における特集ページを掲載 する等の利用促進施策を継続実施 した。  ・市内の高校と連携し、あんくるバ スで行けるおでかけプランの検討 及び利用促進ポスターを作成した。  ・出前講座等を活用した公共交通 に対する意識の醸成や、地域住民 が自ら移動に関する取り組みの支 援を実施した。	A  計画どおり事業を実施した。	A  ・循環線の利用者数は、右まわ りが99,662人、左まわりが 100,645人で、合わせて200,307 人となり、目標値である175,000 人を上回った。  ・JA産直施設及び大型商業施 設開業に伴う影響や各種利用 促進施策により、各路線とも利 用者は増加している。 (前年比の103.9%)	・公共交通全体の利用者は増加傾向であ るため、これまでの施策を継続実施すると ともに毎年度実施内容を評価・検証し、翌 年度の事業に反映する。  ・小中学生夏休み無料キャンペーンなど、 未成年にあんくるバスを知ってもらえる事 業を実施することで、将来的な利用者の 増加を促していく。  ・安心してバスを利用してもらえるよう、代 車運行や工事による迂回運行等、SNSを 活用した情報発信に努める。
東伸運輸(株)	あんくるバス 安祥線 川島～JR安城駅～川島	・あんくるバス循環線右まわり・左ま わりにおいて、JA産直施設開業に 伴い新規バス停を設置して利用者 の増加を促した。  ・運行事業者と連携し、地域幹線系 統である名鉄バス岡崎・安城線に おいて、効果的な路線変更を実 施。当該路線及び各フィーダー系 統の利用者の増加を促した。	A  計画どおり事業を実施した。	A  ・安祥線の利用者数は32,918 人であり、目標値である25,100 人を上回った。  ・日常的な利用の維持に加え て、各種利用促進策の継続実 施により、目標値を超えた数値 で推移している。(前年比の 98.5%)	・民間商業施設等と連携した利用促進策 を展開することで、より多くの利用者数の 増加を図る。  ・出前講座等を活用して地域と関わり、公 共交通に対する意識の醸成を図る。